

福島記録

—北海道の高校生から見る福島の被災と今—

9/29~10/4にかけて
私たちが行ってきた東北の中の
福島を等身大でお伝えします！

10/1

リプルンふくしま

リプルンふくしまは福島県富岡町にある環境省管轄の施設です。

リプルンふくしまでは主に放射性物質に汚染されたごみの埋立処分について学びました。

今まで「原発は危ないもの」という先入観が根底にあったのですが、リプルンふくしまで埋立処分の必要性及び安全対策などのお話を聞いたことで放射線への考え方も変わりました。

現地へ足を運び、見て聞いて、体験することで、今まで知識としてインプットされていたものが記憶として定着しました。



10/1

福島第一原発・
中間貯蔵施設

実際に事故があった原子力発電所やその「核のごみ」を保管している中間貯蔵施設を見学し、概要や工事の進捗、除染土壌の処理の流れなどを学びました。

現地では実際に放射線量を計測して、福島第一原発事故からの復興や福島県の努力を感じることができました。

放射線量が多く未だに人が立ち入ることができない場所はあるようですが、徐々に元の福島を取り戻してきていると聞き、福島県の復興を近くで目にするのができたと考えています！



10/2

浪江町立
請戸小学校

浪江町立請戸小学校は福島県双葉郡浪江町請戸に位置しています。

請戸小学校では、当時のまま残っている黒板の文字や階段、机などがあり、ここで多くの人が学校生活を送っていたことがすぐに分かりました。

学校の海側の壁は津波によって流れており、建物を支える柱のみ残っていました。

請戸小学校の見学では津波の恐ろしさを身をもって感じる事ができました・・・！



10/2

東日本大震災・
原子力災害伝承館

私たちは福島県双葉郡に位置する東日本大震災・原子力災害伝承館にも訪れました。

伝承館では、震災で起きた被害を数字を交えて具体的に知ること、東日本大震災が人に及ぼしたものを学ぶことが出来ました。

土台ごと流れたポストや当時の映像などが展示されているなかでも、災害発生時から今までを細かく示しているパネルが強く印象に残っており、日々目まぐるしく変化する震災後の東日本に触れられたと感じています！

